

特 許 協 力 条 約

PCT

REC'D 11 NOV 2004

WIPO

PCT

## 国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)  
[PCT 36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の書類記号 W1202-00	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/11921	国際出願日 (日.月.年) 18.09.2003	優先日 (日.月.年) 20.09.2002
国際特許分類 (IPC) Int.Cl <sup>7</sup> D03D15/12, D06M13/513, B29B11/16		
出願人 (氏名又は名称) 旭シュエーベル株式会社		

- 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条 (PCT 36条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。  
☐ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。  
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)  
この附属書類は、全部で                      ページである。
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
  - ☒ 国際予備審査報告の基礎
  - ☐ 優先権
  - ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
  - ☐ 発明の単一性の欠如
  - ☒ PCT 35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
  - ☐ ある種の引用文献
  - ☐ 国際出願の不備
  - ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 14.11.2003	国際予備審査報告を作成した日 13.10.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員)  浅見 節子	4S 3233
電話番号 03-3581-1101 内線 3430		

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (1998年7月)

## I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に  
 応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。  
 PCT規則70.16, 70.17)

☒ 出願時の国際出願書類

- |                                     |   |       |        |                      |
|-------------------------------------|---|-------|--------|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 明細書        | 第 | _____ | ページ、   | 出願時に提出されたもの          |
| 明細書                                 | 第 | _____ | ページ、   | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 明細書                                 | 第 | _____ | ページ、   | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲      | 第 | _____ | 項、     | 出願時に提出されたもの          |
| 請求の範囲                               | 第 | _____ | 項、     | PCT19条の規定に基づき補正されたもの |
| 請求の範囲                               | 第 | _____ | 項、     | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 請求の範囲                               | 第 | _____ | 項、     | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面         | 第 | _____ | ページ/図、 | 出願時に提出されたもの          |
| 図面                                  | 第 | _____ | ページ/図、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 図面                                  | 第 | _____ | ページ/図、 | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 | _____ | ページ、   | 出願時に提出されたもの          |
| 明細書の配列表の部分                          | 第 | _____ | ページ、   | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 明細書の配列表の部分                          | 第 | _____ | ページ、   | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である \_\_\_\_\_ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語  
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語  
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表  
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表  
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった  
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 図面の第 \_\_\_\_\_ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならない、本報告に添付する。)

## V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性(N)

請求の範囲 1-5 有  
請求の範囲 無

進歩性(IS)

請求の範囲 有  
請求の範囲 1-5 無

産業上の利用可能性(IA)

請求の範囲 1-5 有  
請求の範囲 無

## 2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: WO 00/60153 A1 実施例4  
文献2: JP 2002-242047 A 【0012】  
文献3: JP 2002-38367 A 【0043】

・請求の範囲1-5

・文献1-3

文献1には、単繊維直径が $5\mu\text{m}$ 、単繊維本数が200本のガラスヤーンをたて糸及びよこ糸に用いたガラスクロスについて記載されている。また、該ガラスクロスは高圧水流による扁平化加工でよこ糸とたて糸を開繊し、均一にガラス繊維が分布するガラスクロスを得ることを目的としており(第7頁第15行~第17行)、さらに、該ガラスクロスを用いてプリント配線板を作成する際は、内層コア板の上に該ガラスクロスを一枚積層する旨記載されている(第9頁第18行~第23行)。

文献2、3には、ガラスクロスの扁平化加工を行う際、ガラスクロスに対して極力低い張力下で、通常使用しうる超音波や高圧水流等による開繊を施すと、より糸幅が広がり、ガラスクロス中のガラス繊維の分布がより均一となって、開繊性が向上する旨記載されている。

文献1に記載のガラスクロスもよこ糸とたて糸を開繊し、均一にガラス繊維を分布させることを目的としているので、開繊性の向上を考慮して、文献1における開繊加工の際、文献2、3に記載の極力低い張力下での開繊加工を施すことを採用し、該張力の最適条件を設定することは、当業者が容易になしうることである。

本願の発明の詳細な説明中の実施例・比較例を参酌しても、本願請求の範囲2に記載の張力の数値限定に臨界的な意義が認められない。

そして、本願の発明の詳細な説明中の実施例を参酌すると、開繊加工の手段として、通常使用しうる高圧散水流を用いていることから、文献1に記載の開繊加工の際、極力低い張力下での開繊加工を施し、該張力を最適化して得られたガラスクロスは、結果として本願請求の範囲1に記載の糸幅比や伸び率比を満たすと認められる。